

オープンイノベーションプログラム

BizDev Meetup ! 2022年度実施報告

はじめに～ BizDev Meetup ! の概要～

当センターでは、2021年度よりオープンイノベーションプログラム「BizDev Meetup ! (ビズデブ ミートアップ)」を推進している。

2022年度は「オープンイノベーションで東北・新潟をもっともっとおもしろく」をコンセプトに据え、「東北圏の企業と協働したい」「東北圏で新規事業を興したい」「東北圏をもっと元気にしたい」という熱意を有する人材に出会いと学びの機会を提供するイベント型プログラムを実施した。加えて、東北圏におけるオープンイノベーション機運の醸成やイベント参加者の効果的な集客等を目的に、オープンイノベーション実践者やイベント登壇者・参加者等へのインタビュー記事の特設サイトで紹介した。

本稿では、2022年度に実施した2種のプログラム「StudyNight (スタディナイト)」と「Pitch (ピッチ)」の概要を報告する。

1. StudyNight

StudyNight は、所属している組織内だけでは得られにくい外部の技術・アイデアや事業創出のヒントなどを学ぶオンライン配信型イベントである。東北圏特有の地域課題、社会・経済潮流を踏まえた時事的内容など、毎回異なるテーマを設定し、当該分野に造詣が深い方や第一線で活躍する経営者などをお招きして実施することとしている。

社会人が仕事を終えて一段落した時間にリラックスして学べるよう、開催日時は平日の夜間(19時開始)に設定。2022年度は「地域資源を活かす新ビジネス」と「NFT で東北・新潟をリ・デザイン」の2テーマで開催した。

1-1 地域資源を活かす新ビジネス



(1)日時

2022年8月24日(水) 19:00～20:30

(2)場所

オンライン

(3)登壇者

株式会社／農業生産法人 GRA 代表取締役 CEO
岩佐 大輝 氏(ファシリテーター)
ヤマガタデザイン株式会社 代表取締役
山中 大介 氏(ゲスト)

(4)参加者

約70名

(5)概要

第1部「StudyTalk (スタディトーク)」では、登壇者2人によるトークセッションを通じて、地域資源を活かしたビジネス手法について学んだ。第2部「せきららトーク」では、「困難に遭

遇した際の乗り越え方」や「ワークライフバランスの実践方法」など、参加者から寄せられた質問に答える形式で、イベント限定の逸話を紹介いただいた。



山中氏(左)と岩佐氏(右)

(6)登壇者発言(抜粋)

- ・(地域資源とは定義されるものではなく)地域において自分がすごく興味があること、すごくワクワクすること、好きなことで、究極的には超自分目線で決まってい(山中氏)
- ・地域において、もし何か「コト」を起こしたいのであれば、徹底して変人になること。誰かの共感や応援を求めず、とにかく自分が変人になって、狂気じみてもやり切るところでしか物事はスタートしない(山中氏)
- ・課題が来たらチャンスだと思っている。同じことをヨーイドンで始めたら、もし自分が課題に当たったとすると、同じことをやっている他の人も必ず同じところで課題にぶち当たる。いいものをつくるか、つukれないかという差はそこでしか生まれないので、課題があるのはラッキーで、すごいチャンス(岩佐氏)

(7)イベントレポート

<https://bizdev-meetup.jp/2022/studynight1/report>



1-2 NFTで東北・新潟をリ・デザイン



(1)日時

2022年10月5日(水) 19:00 ~ 20:30

(2)場所

オンライン

(3)登壇者

株式会社スティーブアスタリスク 代表取締役社長
太田 伸志 氏(ファシリテーター)
iMAMIRAi 株式会社 代表取締役 CEO
梅田 祥太郎 氏(ゲスト)

(4)参加者

約60名

(5)概要

NFTとは、Non-Fungible Token(非代替性トークン)の略で、ブロックチェーン上で発行される唯一無二(非代替)のデジタルトークン(証券)を指す。NFTを付すことでデジタル資産(例:デジタルアート)に希少性を持たせ経済価値を高める手法のほか、最近では、地域活性化や社会課題解決の新たなツールとなる可能性にも注目されている。

イベント第1部「NFTってなんだろう? NFTイロハのイ」では、NFTについてブロックチェーンやWeb3.0など関連した技術等に

係る話題も交えながら、身近な事例に例えるなどして分かりやすく解説いただいた。第2部「可能性は無限大！先進事例から考える NFT × 地域活性化」では、東北圏等における先進事例を紹介いただきながら、NFT を活用した地域活性化手法のヒントを探った。



梅田氏(左)と太田氏(右)

(6)登壇者発言(抜粋)

- ・ NFT を買った代金が寄付になれば、自分が「東北のどこどここのプロジェクトに共感して買った」という記録が一生ブロックチェーン上に残る。例えば私がずっと東北の募金活動をしていたら、何年何月何日何秒に何をしたのか全部分かる。「この人は本物の東北信者だな」とすぐに分かり、口だけの東北好きは成り立たない(梅田氏)
- ・ ふるさと納税は NFT と相性が良く返礼品は NFT で返したほうが良い。自分がもう何人かいるなら、それを事業とするスタートアップを立ち上げたいと思うくらい可能性があると思っている(梅田氏)
- ・ (北の国からのエピソードを引用して) 父親が一生懸命働いて稼いだ泥が付いた1万円札は気軽に使えない。これは単なるお金としての価値を超えて所有としての価値があるからで、その背景を含めた考え方に NFT は似ているのだと思う(太田氏)

(7)イベントレポート

<https://bizdev-meetup.jp/2022/studynight2/report>



2. Pitch

Pitch は「東北圏における事業共創のきっかけづくりの場」を提供することを目的に企画したプログラムである。設定テーマ「東北・新潟をもっともっとおもしろくする」に関する事業アイデアを有する方(プレゼンター)を募集し、書類選考を通過した6名が、先輩経営者(コメンテーター)からのメンタリング等を経てブラッシュアップしたアイデアを、産学官金の多様な参加者に向けて発表する内容としている。

2022年度は、Pitch 参加者の募集開始に合わせて、東北圏で事業を興した起業家3名によるトークイベント「Pitch プレイベント」を開催した。

2-1 Pitch プレイベント



(1)日時

2022年12月5日(月) 19:00 ~ 21:00

(2)場所

シティラボ東京(東京都中央区)

※会場/オンラインのハイブリッド開催

(3)登壇者

一般社団法人 VENTURE FOR JAPAN

代表理事 小松 洋介 氏(ファシリテーター)

株式会社／農業生産法人 GRA

代表取締役 CEO 岩佐 大輝 氏(ゲスト)

株式会社チェンジ・ザ・ワールド

代表取締役 池田 友喜 氏(ゲスト)

(4)参加者

会場参加約10名、オンライン視聴約30名

(5)概要

第1部では、約2ヶ月後に開催する「Pitch」イベントで事業アイデアを発表したいと考える「プレゼンター候補者」や、起業など東北圏を舞台に新たな一歩を踏み出したい方々のチャレンジを後押しすることを目的に、登壇者3名によるトークショー「東北・新潟新時代！次世代のイノベーター Wanted！～東北圏はこれからもっともっとおもしろくなる！～」を実施し、事業創出・共創の場としての東北圏の魅力を訴求した。第2部の登壇者と会場参加者による交流会では、事業創出のコツやピッチイベントに挑む心構えなどについて意見が交わされた。



小松氏(左)、岩佐氏(中央)、池田氏(右)



交流会の様子

(6)登壇者発言(抜粋)

- ・東北は人生を自由にデザインできる。畑を持ちながらスタートアップをやったり、古民家再生ビジネスを営んだり、すごく最先端のことをやったり、全部同時にできるのが東北(岩佐氏)
- ・これから東北人はもっと平場(ひらば)で戦う力を付けなきゃ駄目。いつまでも「震災があったから」と言っていたのでは戦う力がどんどんなくなっていく(岩佐氏)
- ・平場で勝負するというのはソーシャルビジネスという側面だけでなく、商売としてチャレンジしていくこと。その思いを持っている東北の起業家が出てこないといけない。いつまでも「世の中に良いことをやっているから応援してください」では何も変わらない(池田氏)
- ・(岩佐氏の「東北では若い人に希少価値がありアドバンテージ」との発言を受けて)希少価値が高いということは、チャンスがたくさんあって、いろんなことを任せてもらえて、良くしてもらおうこともある。良くしてもらいながら挑戦し、成長できるのは東北の良さ。そのように自分の価値をどこで生かせるかを考えることも大事(小松氏)

(7) イベントレポート

<https://bizdev-meetup.jp/2022/pitchpre/report>



2-2 Pitch



(1) 日時

2023年2月8日(水) 14:00 ~ 16:00

(2) 場所

INTILAQ 東北イノベーションセンター
(宮城県仙台市)

※会場／オンラインのハイブリッド開催

(3) 参加者

<プレゼンター (発表者) / 事業案名>

- ①株式会社やまがたアルカディア編集社
佐藤 拓也 氏 / 縄文そば & 湧き水サウナプロジェクト
- ②小野 典広 氏 / 世界と東北・新潟をコネクトする「体験型購買プラットフォーム」の運営
- ③夜部 茂樹 氏 / 夢食堂～全国の企業戦士の胃袋をつかめ!～
- ④鈴木 瑠花 氏 / 山形庄内を活性化するために自分たちが明日から実践できるモノ・コトをデザインしプレゼンしよう! 次世代のリーダーを育む「次世代リーダー発掘キャンプ」

⑤株式会社テイラーワークス 難波 弘匡 氏 / 課題先進地発・「共創型コミュニティ」による新しい社会的価値創出

⑥まねく.jp 株式会社 前田 悠 氏 / 東北・新潟の美味しいもの屋さん、“どんどん集客×すっごくお得”で、また来たくなるビジネス

<コメンテーター>

- ・一般社団法人 VENTURE FOR JAPAN
代表理事 小松 洋介 氏
- ・株式会社 / 農業生産法人 GRA
代表取締役 CEO 岩佐 大輝 氏
- ・株式会社チェンジ・ザ・ワールド
代表取締役 池田 友喜 氏

<オーディエンス>

会場参加約20名、オンライン視聴約50名

※オーディエンスの属性は以下のとおり

(一部抜粋・50音順)

青森県、特定非営利活動法人アスヘノキボウ、INTILAQ 東北イノベーションセンター、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社、株式会社 NTT ドコモ 東北支社、郡山市、JR 東日本スタートアップ株式会社、スパークル株式会社、仙台市、東北インテリジェント通信株式会社(現 株式会社トークネット) / よりそう東北コネクト、東北経済産業局、一般社団法人東北経済連合会、東北大学産学連携機構スタートアップ事業化センター、東北電力株式会社、東北電力フロンティア株式会社、新潟県、株式会社日本政策金融公庫 仙台支店、福島県、三井物産株式会社、宮城県、公益財団法人みやぎ産業振興機構、宮城大学事業構想学群地域創生学類、山形県、山形大学アントレプレナーシップ開発センター

(4)概要

各プレゼンターは5分間で「東北・新潟をもっともっとおもしろくする」事業アイデアを発表した後、コメンテーターからの講評とともに、「持続性や成長性を感じた」「東北圏をもっと面白くできるアイデア」「オリジナリティーにあふれている」「連携の可能性を感じた！もっと話を聞いてみたい」という4項目について、オーディエンスから共感度合いのフィードバック(投票)を受けた。

本イベントは東北圏における事業共創のきっかけをつくることを目的としていることから、「発表して終わり」「視聴して終わり」とならないよう、希望者が簡単に連絡先を交換できる仕組みを導入。実際に各種 SNS を通じた連絡やオンライン名刺交換などが活発に行われ、多くのつながりが生まれた。



オンライン参加のプレゼンター(右、下)へ講評するコメンテーター(左)



オーディエンスからの投票結果発表の様子

(5)イベントレポート

<https://bizdev-meetup.jp/2022/pitch/report>



BizDev Meetup! 特設サイトでは、東北圏におけるオープンイノベーション実践者やイベント登壇者・参加者等へのインタビュー記事を公開しております。こちらもぜひご覧ください。

<https://bizdev-meetup.jp/news/interview>



<p>インタビュー 地方復帰の時代へ、世界と地続きの課題解決で東北・新潟をもっと面白くなる【株式会社 MAKOTO Prime】代表取締役 竹井智宏氏</p>	<p>インタビュー スタートアップの夢×「R」東日本の社会実装力で社会課題を解決する【JR東日本スタートアップ株式会社】代表取締役社長 柴田 裕 氏</p>	<p>インタビュー 「BizDev Meetup! Pitch」は、挑戦したい人が気軽に参加でき、実現に向けて一歩進むチャンス!【株式会社オーナー】代表取締役社長 佐々木 敦斗 氏 インタビュー</p>	<p>インタビュー 成功の鍵はデジタル住民の協力和リアル住民の理解「Nishikigoi NFT」プロジェクト 【長岡市 山古志支店 地域振興・市民生活課 今井 穂南 氏】</p>	<p>インタビュー 地方都市の成功の秘訣は「and」の視点 【Fukuoka Growth Next運営委員会事務局 ぎくろインターネット株式会社 専業副 関本雄】インタビュー 隆盛 裕 氏 スタートアップ共創グループ 豊月 寛和 氏</p>	<p>インタビュー 地域資源に「自分資源」をかけ合わせ、半歩踏み出してみよう【宮城大学事業構想学群 准教授 佐々木 秀之 氏】</p>
---	--	---	--	---	---